

まつもと じゅん
松本純

中区・磯子区・金沢区
**まちかど
政治版**

号外

問合せ●横浜市中区野毛町2-65 電話045-241-7800 FAX045-253-0585 ホームページ www.jun.or.jp

緊急報告 「新潟県 中越地震」被災地視察

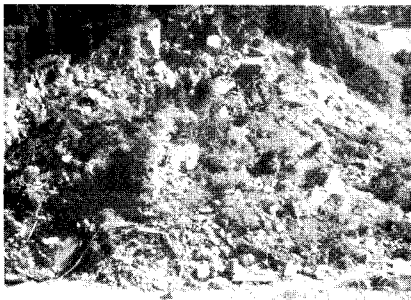
**「絶対に優太ちゃんを助ける!」と部隊長は語った。
部隊長の息子の名前もユウタ君。「わが子を助けている気持ちだった」**

大きな被害を出した「新潟県中越地震」で、唯一私たちの心に光を灯したのは、地震発生から4日ぶり、約92時間後に救出された皆川優太ちゃんでした。2歳の男の子が、あの寒さの中、岩と車にはさまれて生き続けた、まさに奇跡の生還でした。

10月29日、私たちは、東京消防庁のヘリコプターで現地に入り、被災者の皆さんを励ますとともに、今後の復興に向けた要望を伺うため被災状況を視察しました。そのとき、小千谷市の白山公園で優太ちゃんを救出した東京消防庁ハイパーレスキュー隊の清塚光夫部隊長の話のうちがいました。



▲優太くんを救出した東京消防庁ハイパーレスキュー隊・清塚光夫部隊長と



▲信濃川妙見の乗用車埋没現場

「いつ崩落があって二次災害に見舞われてもおかしくない危険な状況でした。土砂が少し取り除かれ、中に明かりが差し込むと、優太ちゃんがこちらに来てしまう。『必ず助けるから、うしろに下がって』といいながら、懸命に作業を続けました」。

実は清塚部隊長の10歳の息子さんの名前は、奇しくも「悠太(ユウタ)」君。「自分の息子を助けているような気分でした。絶対助ける、なんとしても助ける。隊員のそんな強い気持ちが優太ちゃんを助けたのだと思います」。

ところで、ハイパーレスキュー隊の出動は、「緊急消防援助隊制度」を生かして、総務省消防庁長官から東京都知事への出動要請にもとづいて行われました。これは、10年前の阪神淡路大震災の教訓から整備された全国の消防機関の相互応援体制です。さらに今回の救出には、ドイツ製の人命探査装置「シリウス」が活躍しましたが、これも、あの大震災での経験から主な政令市に配備されたものでした。

今回の被災地激励・視察で、私たちは多くの被災者の皆さんの声を直接うかがいました。地元の市町村長さんの要望も聞きました。要望は、①本格的な冬到来の前に住宅の確保 ②電気・ガス・上下水道・電話などのライフラインの全面復旧 ③生活道路の全面復旧 ④被災住民への情報伝達手段の確保 ⑤医療・保健衛生体制の充実 - など緊急を要します。総務大臣政務官として私も、その一日も早い実現に全力をあげます。

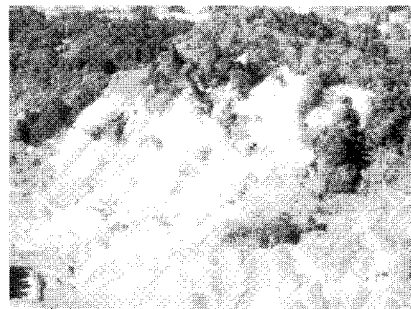
ご意見、ご感想をお寄せください。▶「みんなの声」係 matsumoto@jun.or.jp

10・29 新潟県中越地震 被災地入り日程

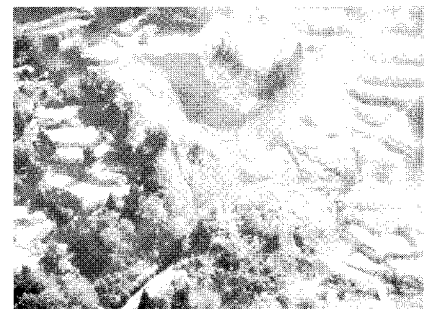
- 午前10時 ●総務省屋上から、東京消防庁のヘリで出発。一行は麻生太郎総務大臣、松本純政務官、林消防庁長官ら総務省から8人と東京消防庁から8人の計16人。立川ヘリポートで大型ヘリに乗り換え、被災地へ。山古志村、妙見町の土砂崩れの被害状況を上空から確認
- 午後0時10分 ●小千谷市白山公園ヘリポート着陸。各自治体から派遣された緊急消防援助隊の皆さんを激励。小千谷市総合体育館で被災者の皆さんを激励、要望を聞く。小千谷市災害対策本部で小千谷市長、堀之内町長らと情報・意見交換
- 午後1時35分 ●白山公園ヘリポートを離陸
- 午後1時45分 ●長岡市防災ヘリポート着陸。長岡工業高校で被災者の皆さんを激励、要望を聞く。長岡市災害対策本部で長岡市長、山古志村長らと情報・意見交換
- 午後3時 ●「長岡市防災ヘリポート離陸。上越新幹線の脱線現場を上空から確認
- 午後3時20分 ●新潟空港着陸。横浜市をはじめ各自治体から派遣された航空隊の皆さんを激励
- 午後3時30分 ●新潟空港を離陸。帰路、被災現場を空から再確認
- 午後5時30分 ●東京ヘリポート着陸



▲麻生太郎総務大臣らと被災地新潟へ



▲土砂崩れが痛々しい山古志村の山々



▲山間部にある錦鯉の養殖場も甚大な被害を



▲小千谷市総合体育館周辺には多数の車



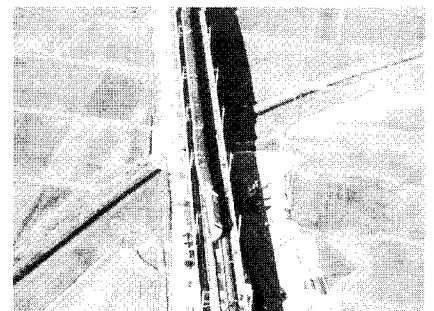
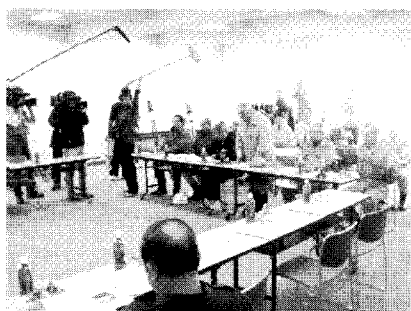
▲住民の避難先・小千谷市総合体育館



▲プライバシーのない厳しい環境です



▲小千谷市災害対策本部で、地元市町村長と情報意見交換をし、切実な要望を受け止めました



▲上越新幹線脱線現場を上空から災害状況・対策確認